

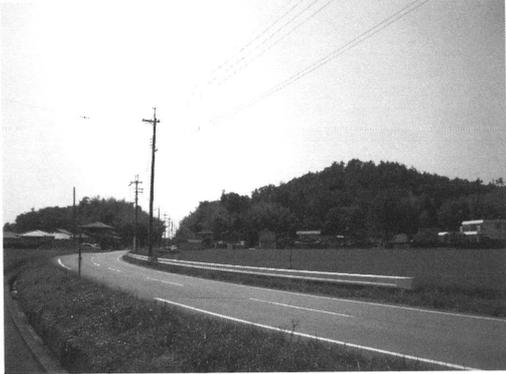
## 息長古墳群

## 甲塚1号墳・奥深古墳群

甲塚1号墳は、横山丘陵の南端で、南に緩やかにおりてきた支尾根の突端に営まれた、直径43m、高さ6mの大型円墳です。この古墳は、葺石を備えているものの、埴輪を伴わないと推測されています。墳頂部の標高は約204.7mを測り、平野部との比高差は約160mです。古墳の東側および南側は急斜面がそのまま下方に続いています。

北側に接して、高さ1mに満たない小さな不整形の高まりがあり、甲塚2号墳と呼ばれています。奥深古墳群は、能登瀬字奥深にある計6基の古墳群です。南から順に1～6号墳とよばれ、最も南にある奥深1号墳は、丘陵先端の尾根上に築かれた円墳で、町道バイパスの南側に位置します。規模は直径約30m、高さ5mを測ります。バイパスの北側にある2号墳は、直径10m、高さ2mの円墳です。3・4号墳は隣接して立地する直径20m、高さ2m程度の円墳で、4号墳からは須恵器の出土が伝えられています。岩盤をくり抜いた墓壙をもつ5号墳は直径22m、高さ5m。6号墳は直径20m、高さ3mのいずれも円墳と考えられています。3・5号墳の墳頂には盗掘坑があります。

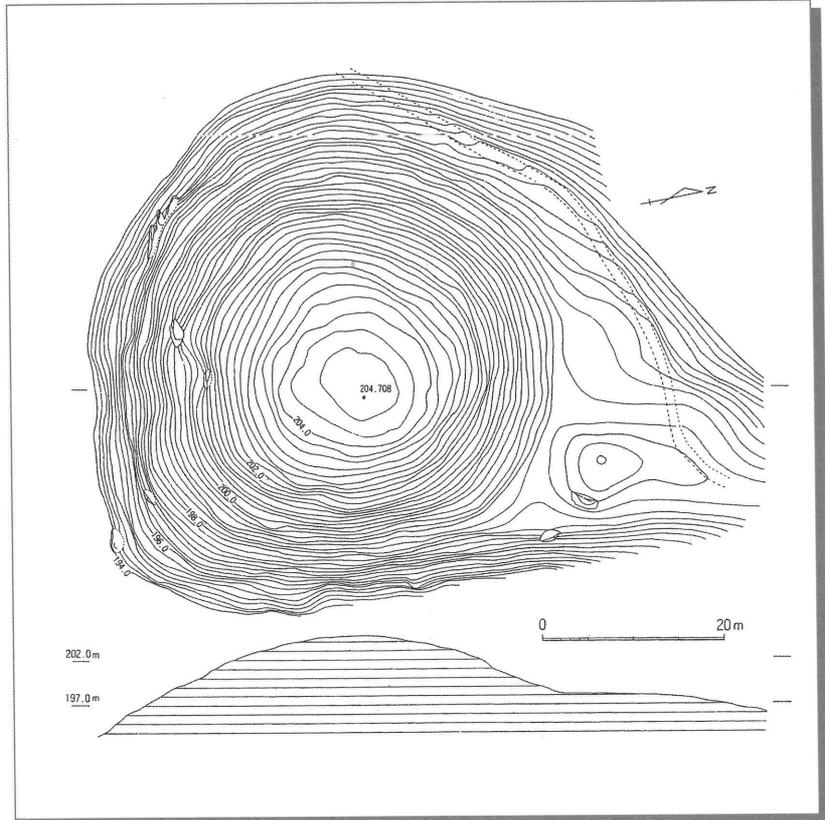
甲塚1号墳



奥深古墳群（左端が1号墳）



奥深5号墳

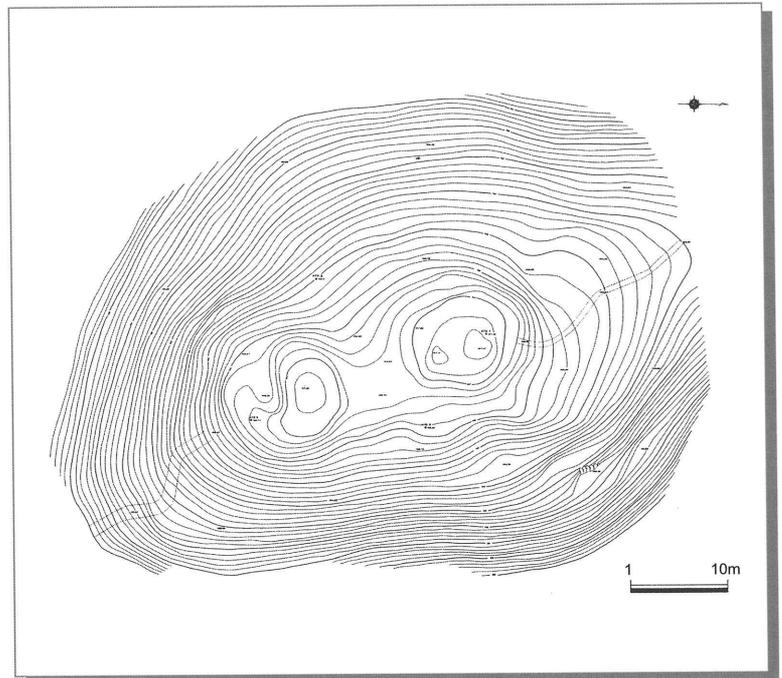


甲塚1号墳

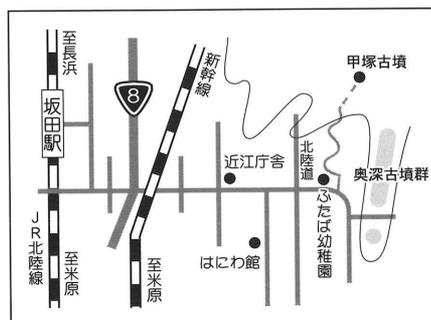
明治15年(1882)、山津照神社の社殿の移転造営に伴い、境内の山津照神社古墳の横穴式石室が不時発見されたときの報告書には、石室の状況や出土遺物の詳細が記録されています。このなかに、「西ノ方岡山土中ヨリ発見ノ分」とする、銅鏡1面（内行花文鏡）、鉄剣、鉄塊遺物が混じっています。この内行花文鏡は石室からの出土遺物群よりも古いもので、出土地点については、西方の尾根上にある奥深古墳群などが候補にあげられています。



内行花文鏡



奥深3・4号墳



甲塚1号墳・奥深古墳群

- 所在地 滋賀県米原市 顔戸・日光寺・新庄・能登瀬
- アクセス 『甲塚1号墳』JR北陸線坂田駅下車。徒歩約20分でふたば幼稚園をすぎて左へ入り、山道を約20分登る。

米原市教育委員会

滋賀県米原市長岡1206番地 TEL.0749-55-8106  
平成20年度 埋蔵文化財活用事業